

開 議

○浅野敏明議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、ございません。

よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

○浅野敏明議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は、答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、順次ご指名いたします。

勝見英一朗議員の質問

○2番 勝見英一朗議員 順位1番、議席番号2番、勝見英一朗議員。

(2番勝見英一朗議員登壇)

○2番 勝見英一朗議員 政新長井の勝見です。市当局におかれましては、新型コロナウイルスワクチンの迅速接種に注力されておられますこと、感謝申し上げます。飲食・観光業を中心にワクチン接種拡大には極めて大きな期待がかかっております。医療関係者はじめ担当の方々にとって相

当なご心労と思いますが、ご自身のご健康にお気をつけながらも、もうしばらくのご尽力をお願い申し上げる次第です。

さて、質問に入りますが、最初に、本市の芸術文化におけるデジタル化の推進について、市長のお考えをお尋ねいたします。

本市では、長沼孝三彫塑館はじめ芳文庫ギャラリーなど、数多くの美術作品が残されております。また、芸能でいえば、獅子踊りなどの市指定無形民俗文化財などもあります。こうした作品は、折々に展示され、発表されておりますが、観光文化交流に寄与するという点でまだ課題があると感じます。

一方、近年のIT技術の進歩は、改めて言うまでもなく目覚ましいものがあります。例えばコロナ禍で観光旅行などとてもできない中で、私たちはニューヨークの美術館フリック・コレクションのフェルメールの絵画を解説つきで見ることができます。また、ルーブル美術館の中を展示物を見ながら歩き回ることもできます。国内では、東京国立近代美術館や国立西洋美術館などで館内を自由に見学することができます。もちろんこれはバーチャルのオンラインツアーです。近くでは、上山市の斎藤茂吉記念館では、館内案内動画のオンラインサービスを開始しようとしております。

このように、芸術文化作品の展示は、従来のリアル展だけでなく、デジタル技術を活用したバーチャル空間に急速に広まってきていると感じます。もちろんまだ一般には本物には及ばないという考えもあろうかと思えます。しかし、現実には、東京国立博物館とNHKが共同で進める8K文化財のように、リアルを超えた展示方法が取り入れられたり、バーチャルがリアルに対する興味、関心を掘り起こしたりというのも事実です。また、バーチャル展示が広まれば、実際の展示に来なくなるのではないかという心配も言われますが、決してそうではありません。

例えば世界遺産のマチュピチュ、写真でよく見えますが、それによってもう現地を見なくてよいと思う人はおりません。逆に、実際に行つてこの目で見たいと思うのが普通です。このように、リアルの価値を多くの人に知ってほしいとするなら、バーチャルの活用を積極的に図るべきと考えるところです。

本市にある芸術文化作品をデジタル化すること、保管されている作品などは文字と写真で目録化されていると思いますが、それもデジタル化し、芸術分野や作者ごとにアーカイブ化していく、そうしてリアルへの関心を広く引き起こし、作品の価値を一層高めていく、こうしたデジタルの活用は、これからの観光文化振興において重要な観点と考えますが、市長はどのようにお考えになりますか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、具体的な展開について、政策推進監にお尋ねいたします。

本市にある作品等をデジタル化することにより、展示の仕方も多彩になります。例えば仮称「長井市デジタル美術館」ですが、既存の施設と大型モニターを活用すれば、来館者は所蔵作品の多くを解説つきで見ることができるようになります。部屋ごとに作者や芸術分野を分ければ、一つの建物で総合芸術展が可能です。それは一方で、実物を見たいという気持ちも引き起こしますので、実際の作品を展示する特別展を、新市庁舎はじめ市内の主な施設で随時開催すれば、観光文化交流の推進につながると考えます。

もう一つ、ぜひ実現したいことですが、仮称「長井市子ども美術館」もバーチャルを活用すれば可能になります。年度ごとにアーカイブ化しておけば、大人になっても自分の子供のときの作品展を見ることができます。それは、地元への意識を長くつなぎ止めることになるはずで

このような芸術文化作品等のデジタル化につ

いて、経費のことも専門とする会社の方にお聞きしてみました。あくまでも一つの例ですが、VRなど360度カメラを活用したバーチャル空間とサイト構築のために、展示数にもよりますが、300万円から500万円、動画であれば100万円程度ということです。制作したコンテンツをより多くの人の目に留まるように、バーチャル空間のコミュニティーサイトに置くにしても、無料コンテンツであれば、例えばコミュニティーサイト「cluster」では維持費はかからないようです。有料のコンテンツであっても、例えば上山市の斎藤茂吉記念館で準備している700円の有料コンテンツ1本の管理費は年間2万4,000円ということでした。

以上、展開例を挙げてみましたが、政策推進監はどう思われますか。こうした展開は、本市の芸術文化振興、観光文化交流の推進にとって有効と考えるのですが、具体的な施策に対する政策推進監のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、教育の諸課題への対応について、教育長と学校教育課長にお尋ねいたします。

1点目は、教育長にお尋ねいたしますが、LGBTやヤングケアラー、経済的な困窮など、なかなか表面化しづらい現実に直面している子供たちの状況把握と対応はどのようにしているか、伺います。

この課題は、直接調査等をするのは適切でないでしょうから、観察や面談あるいは児童生徒からの相談等で把握するしかないのかもしれませんが、しかし、例えばLGBTは、幾つかの調査で数%から10%とされており、ヤングケアラーと呼ばれる生徒の数は、厚生労働省と文部科学省の初めての調査で、中学2年生の約6%に当たると発表されています。発達障害の子供の割合が約6%とされ、その支援体制が徐々に構築されていることと比較すると、同じか、それ以上の割合の子供が、本人が意識

しているかどうかを問わず、一定の困難に直面しているであろうと考えると、確認しておく必要があると思い、教育長にお尋ねしたところです。

私自身、こうしたらいいという方策を持っているわけではなく、何ができるか、真剣に考えてみるくらいしか思い当たらないのですが、真剣に考えることで浮かぶ方策もあると思いますので、現在どのように状況を把握しておられるのか、また、対応をどのようにお考えなのか、お聞かせいただきたいと思います。

2点目は、学校教育課長にお尋ねいたします。

5月27日、2年ぶりに全国学力・学習状況調査が実施されました。学力調査問題を見て、改めて文章の読解力が鍵だと思ったのですが、今回は質問紙に関してお尋ねいたします。

この調査では、家庭学習の時間や国語、算数への関心など、今後の指導に直結する項目が尋ねられております。また、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますかという、本市にとって非常に関心のある質問もあります。これらの質問に関し、本市の児童生徒はどのような状況にあるか、文部科学省は、調査結果の公表は8月下旬、同時期に行われた山形県の学力等調査の結果は10月とされておりますが、これを待つことなく指導に生かすべきと考えますので、その他の調査等で把握されている範囲で結構ですので、注目される質問項目についての本市の児童生徒の状況を教えていただきたいと思います。

最後に、教育長にお尋ねいたします。

教育委員会の今年度の取組の重点の一つに、こども未来創造室による中高連携がありますが、これは何を背景として重点とされたものなのか、また、中高連携をどのように行おうとしておられるのか、教えていただきたいと思います。

確かに長井工業高等学校は、これまで積極的に市との関わりを持ってこられましたし、また、

長井高等学校は、今度着任された校長先生は、平成27年度から3年間、鶴岡市で英語の小中高と地域の連携を図る文部科学省事業に取り組んできた経験をお持ちです。こうした環境は、市全体で中高連携を進めるにはよい条件にあると考えるのですが、それにしても大事なのは、教育長の課題把握の観点と施策の方向性を明確にさせていただくことだと思いますので、お尋ねいたしました。現在のお考えをお聞かせください。

以上、大きく芸術文化作品のデジタル化と教育課題の2つに関し5つの質問をさせていただきました。ご答弁よろしくお願ひいたします。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

勝見英一朗議員から大きく2点ご質問、ご提言いただきまして、私のほうでは、1点目の長井市の芸術文化作品等のデジタル化による活用についてということで、勝見議員からは、本市または個人が所有する芸術文化作品をデジタル化して管理しアーカイブ化するなど、芸術文化におけるデジタル化についてどう考えているのかというご質問をいただきました。

長井市の文化財あるいは文化施設につきましては、間もなく収束すると思われかもしれませんが、アフターコロナになりましても、これまで以上に市内外から多くのお客様にお越しいただきましてご覧いただくということ、あるいは施設の収益増につながるような観客の増、観光客の増というのは、そう簡単には見込まれないなど考えているところでございます。それは、一つ一つの作品あるいは様々な芸術文化財というのは大変すばらしい作品を私ども頂戴しているわけではございますけれども、いかんせん私ども長井市でどういった文化財、芸術作品を保管しているのかということは、今まであまりPRする機会がなかったと。また、いわゆるマスコミをはじめ様々なそういった関係の皆様に取り上げて紹介いただくというパブリシティといいま

すか、そういったものについても、過去20年、30年どころか、もうずっとそういったことがあまり活発に行われてこなかったと思っております。

そういったことから、勝見議員からご紹介いただいた事例のように、今後は、まず多くの国内外の美術館等でもオンラインを活用した展示を取り入れているところが増えておりますように、私どもでも、そういった方向で、最初、まずは広く作品そのものを整理しながら、市内外にPRしていくということが重要だと思われま。す。文部科学省では、新しいデジタル文化の創造に向けた取組として、最新デジタル技術を活用することによって文化資源の有効活用がより一層促進され、多様なミュージアム体験が可能になる新しいメディア芸術の創造、発展によって文化芸術に触れる機会が増え、身近に芸術文化のある新しい生活が実現する、こういったことが期待されると思っております。

実際に、全国の文化財、美術品情報等の文化資源のアーカイブ化、検索システムの整備、インターネット公開が始まっております。また多様な展示解説ツールの展開や臨場体験可能な映像展示、バーチャルリアリティー等による仮想体験などの多様なミュージアム体験も進んでおります。後ほど竹田政策推進監のほうから具体的に、例えば今、私どもでNTT東日本から人材を派遣いただいて、Society5.0を目指したデジタルトランスフォーメーションも含めた様々なデジタル技術の活用を進めようとしておりますけれども、NTT東日本の本社から取締役部長が実際にいろいろな私どもに実態といますか、こういう芸術作品なども、今は考えられないぐらいの80億画素ということで、8Kのすばらしいデジタルテレビが話題になっております。これ3,000万画素ですが、80億画素だそうです。これによって、例えば葛飾北斎とかそういった作品がもう、現実以上ということ

はないんでしょうけども、それが画像で見れると。

それは、もうこれから当たり前の時代なんだということもおっしゃっていただきましたので、それは竹田政策推進監のほうから詳しくお話しさせていただきますが、長井市のほうでは、例えば文化財として丸大扇屋や長沼孝三彫塑館、芳文庫ギャラリーなどの施設で保管してるものが多いわけですが、これらの施設では、保管場所がいっぱいとなっており、また、常設で展示できる施設やスペースも不足しております。例えば企画展を行う場合ですと、現在は長井市民文化会館や旧長井小学校第一校舎に持ち出しして展示しているような状況でございます。現在、各施設の作品のリスト化、データ化を順次進めておりますけれども、全体のデータ化とその活用にはまだ至ってない状況でございます。このことから、新たな作品の保管場所やスペースの確保、新しい展示施設もしくはデータ化による作品の展示、活用が課題になっております。

まず、そのために、今年度は、実際に多くの作品を見ていただける機会を増やすために、保管場所やスペースの確保及びウェブ上でも見ていただけるよう、文化財のデータ化を進めてまいりたいと考えております。将来的にはデジタル化、アーカイブ化を図り、5Gなどを活用しながら従来の方法によらない展示ができるよう検討してまいります。あわせて、市内の小中学校のオンライン授業に活用することも検討していきたいと思っております。

これからの考え方でございますけれども、やはり昨年、一昨年から、長井の出身の方で国内的にも有名な版画家の菊地隆知先生の作品なども私どもにご寄贈いただいて、ぜひ菊地隆知先生の美術館をという要望なども直接私もいただいております。今後、関係の皆様あるいは議会ともいろいろ議論しながら検討していく必要があると思っておりますが、やはり国内、世界的

にはもちろんそういった美術館で貴重な作品を見れるということで、世界中から多くの人が訪れているような美術館などはございますが、現実的に私どもでどこまでできるかと考えたときに、その一つ一つの作品の持つ魅力といえますのも重要なんですが、私どもとしては、例えば平成29年に認定をいただきました重要文化的景観、これらをまず生かすことを考えていかなきゃいけない。その場合に重要なことは、最上川上流域における長井の町場景観という文化庁の重要文化的景観の指定を受けたわけですが、その実際の当時の雰囲気っていいですか、あるいは歴史を感じられるようなまち並みが、本当に市内外の人が感動するような、そういったものがあるかという点と、様々な視点からハード、ソフト両面から整備しなきゃいけないと思っております。

したがって、私が考えるのは、もう5年、6年前から市民の中でいろんな活動をしていただいている例えばまちめぐり美術館のような、大きい美術館ということじゃなくて、まちなかの空き店舗やら、あるいは酒蔵をお借りしたり、店舗の一部をお借りしたりして小さい美術館をいろいろ巡りながら長井の歴史やら文化、そしてその作品の持つ力を見ていただくと。それが長井のこの文化的景観につながるような、そういったいわゆる物語を感じられるような文化財の生かし方を考えていくべきだなと。ですから単に箱物の美術館を造るというだけでは、恐らく私ども長井市ではそうそう多くの人に、せっかくの作品なんですけど、見に来ていただけるということは、よほど工夫をしないと難しいと考えているところでございます。

1つの例を挙げますと、昨年から今年にかけてはコロナ禍でございまして、今年設立して3年目になります地域連携DMOの一般社団法人やまがたアルカディア観光局で、オンラインツアーというのを何回か企画いたしました。これ

は、もちろんインターネットで募集するわけですが、幾つかの旅行商品があるわけですが、その多くがやはり長井市を中心とした置賜2市3町の様々なすばらしい景観であったり、食文化であったり、あるいは食材の持つ魅力であったり、そういったものを生産者と一緒に、あるいは山形鉄道フラワー長井線に乗って、例えばながい百秋湖をゴムボートで渡りながら、その雰囲気を実際に旅行してみたいにしたいを見ていただいて、食事していただいたり、体験していただくということをやっておりますが、非常に反響がありまして、それで満足ということじゃなくて、ぜひ行ってみたいと、ぜひそこで一緒にみんなと楽しみながら地元の人と交流しておいしいものを味わってみたいという声が大変寄せられておりまして、それが第二弾、第三弾とつながってると思っております。

これから私ども長井市としましては、今、第3次の都市再生整備計画事業ということで、公立置賜長井病院の改築であったり、あるいは新市庁舎の周りの道路を整備したり、そしてこの秋には多機能型図書館や子供の屋内遊戯施設などを中心とした公共複合施設が着工になるということで、令和5年まで、今年を含めて3年間、5年間の事業の中の3年間で様々な事業を行ってまいります。それが終わった後の第4次の都市再生整備計画事業の中で、ぜひ今度は長井の重要文化的景観を生かした宮・小桜街のまちづくり景観、あわせて、あやめ公園やら、必要だったらまちめぐり美術館的なものも整備していくべきではないかと、このように考えておりまして、まずは勝見議員から提案ありました長井市あるいは個人が所有する芸術文化作品をデジタル化して管理しながら、芸術文化におけるデジタル化について鋭意進めてまいりたいと思います。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 勝見議員からは、大きな2番

目、教育の諸課題に対する対応について、私には、さらにその中の大きな2つ、1つ目は、LGBTやヤングケアラー、経済的困窮等、なかなか表面化しづらい現実に直面している子供の状況把握と対応について、そして2つ目が、こども未来創造室の中の中高連携についての現状、そして今後の方向性、考え方、この2つについてご質問いただきましたので、順次お答え申し上げます。

まず1つ目の項目についてでございますが、子供たち、毎日とってもいい顔で登校しておりますけれども、それぞれの子供のことを見詰めると、大なり小なり様々なことを背負っております。特に近年では、状況が複雑化、多様化し、その状況等についての把握、そして対応に戸惑うケースが多くなっていることも事実です。学校では、子供の姿からその背中に背負っているものに気づき、言葉がけをしたり、話を聞いたりするなどして対応するなど、一人一人を大切にしたい取組を進めております。そして教育現場ということをお考えすると、このことが把握の大前提だと私は思っております。特にアンケート等、議員からもご指摘いただきましたけれども、取られる子供、それから家庭のことを考えると、やはり慎重かつ丁寧に進めていかなければならないと思っております。

さて、LGBT等に関しては、小中学校において現在相談を受けている児童生徒が数名おります。中学校においては、制服の在り方だけでなく、個々の違いを認め合う視点から、校内生活全般にわたって方向性を定めていきたいと考えております。また、性の多様性の理解のために、養護教諭が中心となり、中学生に向けて講話を行ったり、教科の授業で取り上げたりもしているところです。女子のスラックス着用、それから男女混合名簿等を進めている自治体もありますし、本市の学校でも既に検討が始まっております。思春期に差しかかる子供たちにとっ

て、学校が自分らしく生活できる場であるよう理解を進めるとともに、他者の存在や違いを大切にし、尊重しながら生活していこうという校風づくり、これを一層進めるよう支援していきたいと思っております。

また、このことについては、保護者や地域の方を含めた社会全体の理解も非常に大切になってきます。関係機関との課題共有を含めて進めていかなければならないと考えております。

次に、ヤングケアラーについてです。

この視点は、非常に大切な視点であると私も思いますが、昨今の報道等を見てますと、ヤングケアラーという言葉、それから6%、新聞等では16人に1人という言葉が出てきておりますが、この数字が独り歩きしないように進めていきたいと考えております。このことに関しては、小中学校において数名ずつやはり確認しております。担任からの確認はもちろん、学校全体で子供たちを保護者も含めながら見守り、関係機関との連携を図りながら対応しているところです。

民生委員・児童委員との各学校で行っている懇談会、コロナ禍でなかなかできなくなっておりますけれども、貴重な場でもありますので、情報収集や、その後の支援につなぐことができるようにしていきたいと考えております。この課題についても、学校だけで解決できる問題ではありませんので、子育て推進課、福祉あんしん課等、必要に応じて医療とも常に連携を取りながら対応を進めていきたいと考えているところです。

大きな2つ目、こども未来創造室による中高連携についてお答えを申し上げます。

中高連携を取組の重点とした理由は2つあります。1つは、この変化の激しい時代でも力強く世界で活躍できる人を育てるという、長井市の施策にとって中高連携が重要な課題であると捉えているためです。それから2つ目は、先ほ

ども話題にしましたLGBT、それからヤングケアラー、それから発達障害等特別支援と、これまで以上に中高連携が大切な視点になっていると考えているからです。

1つ目の課題、長井高等学校及び長井工業高等学校は、それぞれの特徴を生かした学びが実践されています。しかし、昨年度来、議会でもご指摘のとおり、市内高校に進学する市内中学生が減少傾向となっております。昨年度は市内高校への進学者が92名、それから置賜管内の公立高校、これが55名、置賜管内の私立高校、これが40名となっております。私立高校への進学者は長井市を中心とする西置賜地方の中学生が多くを占めておりますので、市内中学生の進学者の減少は、高校の存続問題にも直結するところでございます。長井市内の2つの高校に魅力を感じ、市内で学び、将来の地域社会、そして日本、世界を担う人材が育つ環境を整えることは、本市のまちづくりにとっても大切な視点であると考えております。

この市内高校に進学する中学生が減少している背景の一つとして、市内高校の魅力が中学校側にうまく伝わっていないということが校長のほうからも指摘されているところです。そこで、具体的な取組としましては、まずは中学校2校と、それから高校2校の校長先生が一堂に会し、課題の共有と今後の対応策を検討できる場をつくり、計画をしているところです。まずできるところから速やかに実行していく、ここから始めたいと思います。既に4月以降、各校の校長先生と個別にお話をして課題を共有するなど、新たな関係構築に着手しているところでございます。新たに設置したこども未来創造室が中学校と高校の橋渡しとなって、将来的には、やはり長井市で目指す長井市、山形県、日本、世界、ここで活躍する人材の育成に向けた取組が小中高、そして市民それぞれ一体のものとなるように進めていく、そういうふうになっているところ

です。

加えて、今、市内では、起業体験ワークショップですとか、それから長井商工会議所のジュニアエコノミーカレッジですとか、高校生が参加できる長井ビジネスチャレンジコンテストなど、様々なものがあります。また、学びの広がりでは、ハイパー学童ですとか、それから探求学舎等、新たな取組が始まっております。校外、それから校内、学校でのそれぞれの取組を、できれば一つの大きな方向軸にできればと考えているところでございます。

それから、2つ目の課題については、これは緒についたばかりでございます。この子供の育ちを幼保小中高一貫のものとして考えつつ、今年度1年をかけて、どういうふうにつないでいって子供の幸せにつないでいくか、これらの在り方を検討していきたいと考えているところです。

○浅野敏明議長 竹田利弘政策推進監。

○竹田利弘政策推進監 私からは、問1の長井の芸術文化作品等のデジタル化による活用についての(2)デジタル化により、クラウド上の「デジタル美術館」や「子ども美術館」の構築、有料コンテンツによる入館料収入等、様々な展開が可能になる。そのようなデジタルを活用した芸術文化振興策に取り組んではいかかかについてお答えいたします。

本市のデジタル化の取組につきましては、先ほど市長からもご紹介がありましたが、NTT東日本本社より昨年7月からデジタル専門人材として派遣いただいている総合政策課デジタル推進室長、小倉 圭さんと庁内若手の職員15人のデジタル推進室員がデジタル技術を活用した地域課題の解決策や庁内業務のDX、いわゆるデジタルトランスフォーメーションの検討を進めております。昨年度は、デジタル地域通貨「ながいコイン」の実証実験を行ったほか、eスポーツ大会や庁内事務の効率化を図るRPA

の導入などに取り組みました。

また、今年3月には、NTT東日本山形支店と「地域活性化を目的とした地方都市型スマートシティの社会実装に向けた連携協定」を締結いたしまして、今年度はMa a Sとスマートストアによる交通や買物支援、SIMを活用した子供の見守り、LPWA、ローパワーワイドエリア規格の電波を活用した市内消火栓の水位監視など、生活の安全を守る事業を軸としたスマートシティ実現に向けまして、地方創生推進交付金の活用を計画し、この6月に入りまして内閣府に実施計画を提出、県内におけるデジタルトランスフォーメーションのトップランナーとしての取組を進めております。

デジタル技術を活用した芸術文化に関する事例といたしましては、東京都のお台場のパレットタウンにあります没入感あふれる体験型博物館チームラボボーダレスが日本国内では一番有名でございます。

また、先ほど市長からもちょうとご紹介ありましたNTT東日本でも、東京オペラシティタワー内の文化施設、NTTインターコミュニケーション・センター、略称ICCというところでは、葛飾北斎の「富嶽三十六景」と歌川廣重の「東海道五拾三次」をデジタル化した作品展「北斎VS廣重 美と技術の継承と革新」を昨年12月から開催してようございます。このNTTインターコミュニケーション・センターを、デジタル推進室、小倉さんの案内で総合政策課の職員が2名、展示を視察いたしております。技術的には80億画素とか、100億画素に近いものも可能なようございます。モニターの関係上、ここでの作品展示は20億画素の超高精細デジタル技術で記録されているものが展示されてるようございます。

現在の8Kテレビが3,318万画素ですので、桁が2つも3つも4つも違うようなものが展示されてるものですから、高精細さは比べ物にな

らず、この鑑賞した職員からは、いわゆる和紙の質感まで表現されていたとか、あと、ズームして1点を細かいところまで見るのが可能だとか、デジタル化にすることで、例えば画像を回転させて様々な角度から作品を見ることで新しい発見につながったなど、やはり今まで既存のリアルで作品を見るものとは全然違った意味で、新しい発見があったということの感想を得ております。やはりデジタル化ならではの楽しみ方や新しい価値の創出といった感想を聞いております。

また、この展示場は決して広いスペースではなく、その中で、「富嶽三十六景」と「東海道五拾三次」の全作品を見ることができることから、デジタル技術を活用した作品展示は小スペースで多くの作品を展示することができる点や、作品の劣化、特に版画は非常にデリケートで、作品の劣化を防ぐためには様々な設備が必要ということもございますが、こういったデジタルですと、モニターがあるだけで大丈夫ですので、劣化を防ぐ設備などが不要である点も特徴ということで説明を受けてきております。

勝見議員からご提案のありました「デジタル美術館」につきましては、議員からもご案内のとおり、芸術文化振興や観光文化振興の推進に有効であると思料されます。作品の解説とセットでお見せすることができたり、劣化している古い作品の色合いを画面上で復元したり、作品をいわゆる三次元化とかVR化することなどもできるため、作品本体への興味、関心がこれまで以上に一層高められると感じております。また、作品に必要なコスト面では、現在のところ、先ほどのNTTの事例ですと、超高精細カメラでの撮影料金は数百万円単位ではない、もうちょっと高額になるというものの、美術館のような広い空間や作品を劣化させないための調光や空調といった特別な施設、設備が不要であることから、展示に必要なインシャルコストが非常

に抑えられるということもございます。

さらには、先ほどご提案ありました「cluster」といったコミュニティーサイトなどオンラインサービスでの展示を行う場合、作品の維持管理やいわゆる施設の維持管理そのものといったコストもかからないため、ランニングコストが抑えられます。加えて、ご提案ありました子供の作品をアーカイブ化しておくことで、大人になってからも容易に自分の子供の頃の作品を見ることができたり、あと、自分の子供に、私はこういう考えだったとかということを見せたりすることができ、デジタルな「子ども美術館」は地元への愛着を根づかせる一助になるとも考えております。

市民美術館のような大規模な新たな施設を一から整備することは、建設時の費用だけでなく、調光や空調などの面からもランニングコストも多く要するために簡単に取り組むことは非常にハードルが高いと思料されますが、デジタル化した作品であれば、モニターなど必要な機材を確保することにより新市庁舎の市民交流ホールだったり、長井市民文化会館、旧長井小学校第一校舎だったり、観光交流センター道の駅川のみなど長井など、多様な場所での展示は可能ですし、先ほどのNTTの施設のような超高画質のコンテンツについても、NTT東日本から長井市の具体化策について、そんな大規模なものはないんですけども、小規模なものでどういったことができるか、提案をいただいているところでございます。

デジタル美術館の実現に向けては、現在のベースでは、コンテンツをつくるためにも最低でも数百万円規模、超高精細になればそれ以上の費用を要するため財源が課題となりますが、対象経費の2分の1が特別交付税で措置される総務省のメニューの地域文化デジタル化事業や、補助率が最大で3分の2である文化庁の文化資源活用事業費補助金などがあるようでございま

すので、どういったものに使えるか、これから検討は当然必要ですけれども、こういった財源確保策を検討し、実現に向けて進めてまいりたいと考えてございます。

○浅野敏明議長 目黒孝博学校教育課長。

○目黒孝博学校教育課長 それでは、私のほうから、令和3年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙に関する質問をいただきましたので、お答えいたします。

まず、今年度、2年ぶりに全国学力・学習状況調査が実施され、本市の小中学校8校も予定どおり実施することができました。令和3年度の児童生徒質問紙の項目についてですが、昨年度の長期にわたる学校の臨時休業を受けて、臨時休業中の学習について問う項目、そしてICT機器の活用について問う項目の大きく2つの項目が追加されております。

議員の質問にあった地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるという項目は、今年度も設定されております。昨年度は校外での活動が制限された影響が出ることも考えられますが、各学校で新型コロナウイルス感染症の感染防止について自分たちにできることを考える機会をつくったり、この感染で辛く悲しい思いをする人が出ないようにすることを自分たちで考えると、こういうふうな行動をしていることもあって、今年度も全国平均をやや上回るような結果が出るのではないかと思います。

また、家庭学習の時間や国語、算数への関心などは非常に気になるところではございますが、全国平均とほぼ同じか、やや上回る程度になるのではないかと思います。ただ、新型コロナウイルス感染症による長期にわたる臨時休業の影響がどのように出るかというところは、今後注目していきたいなと考えています。

今年度追加されました臨時休業中の学習については、新型コロナウイルスの感染拡大で多く

の学校が臨時休業していた時期に、勉強に不安を感じていたか、計画的に学習を続けることができたか、規則正しい生活を送っていたかを問うような項目でした。もう一つ追加されましたICT機器の活用についてですけれども、学校でICT機器をどの程度使用しているか、そしてICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うかというものを問うものでした。2つの項目とも、今年度、各学校で配慮して取り組んでいる項目ですので、全国平均と同程度か、やや上回るような結果が出るのではないかと考えています。

長井市としてはですけれども、特にICT機器の活用の項目について、今後、確かな学力の育成につながる指標として注目していきたいと考えています。ICTを活用した確かな学力を身につけるための授業改善、それから一人一人の児童生徒の学びの自立という視点から長井市全体の傾向や各学校の状況を分析して、日々の授業の充実や改善に生かしていきたいと考えています。また、全国学力・学習状況調査の結果は、一人一人の児童生徒に個人票としても配布されますので、学校ごとに児童生徒の個々の状況を分析し、各学校における授業改善や個別の指導、支援につなげていきたいと考えております。

○浅野敏明議長 2番、勝見英一朗議員。

○2番 勝見英一朗議員 ありがとうございます。いろいろ教えていただいたところもありますので、改めて一、二点お尋ねさせていただきますが、最初に、市長にお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

小中学生の若い人たちの考えをいろいろお聞きしたいなと思っております。それで、集団は違うんですけれども、お聞きしたところがありました。その中に、あなたは出身地のどんなところが好きですか、または誇りに思いますかという問いに対してなんです、全体的な傾向で

申し上げますが、芸術や文化に対して予想よりも低いところが出ておりました。ただ、別な集団では、この芸術文化については高い数値が出ておりました。地元出身地の何が自分の誇りになるかというところでは、1つの集団ではちょっと芸術文化は低かったんですが、もう一つの集団では、思いのほか高い数値になってました。

ここは考えるべきところもちろんあるんですけども、これを含めてなんです、今回芸術文化のデジタル化ということで取り上げましたけれども、この長井市の芸術文化の在り方、そして重要文化的景観の話がありましたけれども、それらのことについても、こうした中高生の若い人たちの関心がどこにあるのか、どういう方向に向いているのか、本市の芸術文化についてその若い人たちが何を求めているのか、その辺りをぜひ掘り下げてはいかがかと感じたところです。若い世代の方にまたお聞きしたこともありましたけれども、文化というのは、長井市に自分が住んで一つの根拠だと話をされる方もおりました。

そんなふうに、若い世代にとってこの芸術文化はどのようなものなのか、そしてどうあってほしいのか、その辺りをぜひ掘り下げていただければ、このデジタルを活用した文化芸術の在り方についても、また新しい指針が出るのではないかなと感じてるところなんです、そのことについては市長はどんなふう感じられますでしょうか。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 勝見議員おっしゃるように、小中学生にとって文化芸術というのは、特にここ二、三年はコロナ禍ということもあったり、あるいは長井市民文化会館の大規模改修等々で県美展ははじめ様々、あるいは音楽を聴くような、そういった機会なども少なかったと思っておりますが、やはり今から20年、30年前ぐらいから比べれば、そういった文化活動、子供たちにい

ろんな芸術作品を直接見ていただいたり、あるいは一流の音楽を聴いていただいたりとか、そういう機会が少なくなっていることがあっても多くなっていることはなかったなと思っておりまして、そこが、やはり教育委員会とも相談しながら、そういう機会をより多くつくらなきゃいけないんじゃないかなと思っておりましてけれども、あとは、どちらかというと、長井文化協会をはじめ長井市のそういう芸術文化などを担っていただいている様々な団体については、団体そのものが随分高齢化してしまっていて、活動も以前よりは少し停滞している団体もあるのかなと思っております。

もう少し若い人たちに、より芸術文化に触れ合うような、そういう機会をつくらなきゃいけないと思っておりますが、小中学生とかについては、私は単純に、やはり学校等々でのそういう機会を増やすとともに、最近では、例えばダンスとか、そういうことでの、これもスポーツというよりも文化になるのかもしれませんが、歌って踊ってみたいな感じですから。そういうことなどがやっぱり私ども市長部局としても、もう少し何らかの形で、子供たちがどういったものだと参加できるか、そういうところを検討していかなきゃいけないと思ってます。すみません、長くなりました。

○浅野敏明議長 2番、勝見英一朗議員。

○2番 勝見英一朗議員 GIGAスクール構想でタブレット等も配布されております。それらを活用していきますと、わざわざどこかに行つて見るということがなくても鑑賞できる環境になるかと思っておりますので、そういうことも含めてぜひ進めていただければと思います。

時間が限られておりますが、もう1点だけ簡単に質問させていただきます。

教育長に最後に1点質問いたします。

今、LGBT、それからヤングケアラーの話を出しましたけれども、このLGBTに関する

認知度については、今回の厚生労働省と文部科学省のプロジェクトチームでも、来年度からこの認知度を高める、今は非常に低い認知度なんです、それを50%程度まで高めたいという目標を持つてようなんです、このLGBTあるいはヤングケアラー、こういうことの認知度を高めるといことについては、一定の配慮等も持ちながら行うことになるんだと思うんですけれども、そうしたことについて教育長はどのようにお考えになりますか。

例えば山形市ですと、山形市の職員や学校での対応の仕方をハンドブックにまとめたり、あるいはさいたま市ですと調査を始めようとしているところもありますけれども、これからの調査の方向あるいはそのことに対する認知については、現在のお考えで結構ですので、最後にお聞かせいただきたいと思ひます。

○浅野敏明議長 土屋正人教育長。

○土屋正人教育長 今のご質問ですが、例えば性的マイノリティー、いわゆるLGBTについては、文部科学省のほうで平成27年度に既に通知が出されております。山形県の場合は、ここに即した具体的な取組という指針は示されておられません。私、見たのがこの文部科学省の文書と、それから兵庫県が非常に強く受け止めながら、研修の参考資料として校内研修の資料なども提示しております。これらを含めながら、先ほどもお話ししましたが、養護教諭、それから保健の学習のほうでは少しずつ進めていることも事実です。むしろこの認知度については、地域、それから保護者の認知度のほうも課題になってくるのだと思ひます。

先ほど申し上げましたように、これは、ただ点として知識として送るものではなくて、やはり共生社会という大切な視点から、改めて今の教育計画を見詰めながら今やっているところをさらに深めていく、そういうところから私は始めたいなと思ひております。

○浅野敏明議長 2番、勝見英一朗議員。

○2番 勝見英一朗議員 LGBTについては、これは新聞に載ってますので学校名を上げてよろしいかと思うんですが、新庄東高等学校の生徒が写真展を行いまして注目されました。担任の先生にお話をお聞きしたんですが、その生徒は、学校のときに教えてくれればよかったのになというふうに一言言ってたということでした。そのことも非常に残っておりますし、また、細心の注意をしながらということも必要かと思えますので、今回取り上げさせていただきました。

なお、山形県高校教育課では、先日、女子の制服のストラックスの準備については調査を行っておりますし、そのほかの動きも今後出てくるかと思えますので、ぜひ待たずに検討を進めていただきたいと思えます。

以上で質問を終わります。

内谷邦彦議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位2番、議席番号7番、内谷邦彦議員。

(7番内谷邦彦議員登壇)

○7番 内谷邦彦議員 政新長井の内谷邦彦です。新市庁舎の議場での初めての一般質問であり、様々な部分で今までと違うところや不慣れな部分があると思えますが、よろしく願いいたします。

2つの項目について質問いたします。明確な回答をよろしくお願いいたします。

最初に、オリンピック・パラリンピックホストタウン事業について伺います。

7月23日開会予定の東京オリンピックについて、新型コロナウイルス感染症第四波の拡大とともに国内では反対世論が高まり、海外メディアは最悪のタイミングとの報道もあり、その余

波を受け、ホストタウン登録自治体が難しい対応に追われております。

ある資料によると、ホストタウンに登録している自治体は、自治体数で528、計画数では456件となっており、東日本大震災からの復興五輪を大会理念に掲げ、開幕まで40日程となり、世界に復興支援の感謝を伝えようとホストタウンに手を挙げた東北の自治体は、新型コロナウイルス感染症の流行で海外選手らとの交流事業の縮小を余儀なくされており、選手団との再調整や医療体制の確保などの負担も増大しています。サモアを招く予定の市では、友好のあかしに市章と国旗を印刷したのぼり旗を既に市役所前から撤去しており、重量挙げと7人制ラグビーの事前合宿を計画しましたが、宿泊先と見込んでいたホテルはコロナの関係で従業員を減らし対応できなくなってしまい、事後交流に切り替えようとメールで問い合わせているが、返答はないとのこと。市民との交流もできそうもないのに、選手の感染リスクを背負ってまで受け入れるべきか、担当者はジレンマがあると困惑しているとは話です。

ある市では、2月、パラリンピック5人制サッカーのブラジル代表から、事前サッカーを断念するメールが届いた。大会後、選手はすぐ帰国する見通しで、市のパラリンピック推進室はオンラインでもいいので、交流の機会を考えたいとの望みをつなぐとのこと、ほかの市も、相手国の対応に疲弊しており、チュニジアからの3競技の選手団を迎える予定だったが、3月に水泳、5月中旬には陸上と重量挙げへの変更を要請され、「想定と全く違い、交流のスタートラインにさえ立てない」と語っておりました。イタリアなどと折衝を重ねるある市の職員は、国から届いた手引による対応に苦慮しており、受入れは現時点で6競技、コロナ対策に万全を期すため、競技ごとに選手団の動線確保や独自マニュアルの提出を求められ、困惑していると